

第 2 学年 国語科学習指導案

日 時 令和元年*月*日（*）3校時
対 象 **小学校2年*組
児童*名
授業者 ****

1. 単元名 しゃしんをつかって、せつめいしよう
教材名 「さけが大きくなるまで」
2. 単元の目標
さけの成長について、季節や場所、さけの様子の変り変わりを考えながら、内容の大体を読む。
3. 指導にあたって

(1) 題材について

本単元は、学習指導要領第1学年および2学年の次の指導事項に重点を置いて設定した。本単元の目標は、「順序に気をつけて正確に読んだり、事柄の順序を考えながら、語と語、文と文との続き方に注意して書いたりする」である。学習指導要領の第1学年及び第2学年では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域ともに、「順序」に指導の重点を置く目標が示されている。本単元でも、「順序」に指導の重点を置きながら、読んだり書いたりする活動を進めていくことが大切である。「順序に気をつけて」とは、特に、時間的な順序、事柄の順序に気をつけて読んだり書いたりする力をつけることである。本単元は、児童の知りたいという欲求や知ることの喜びを大切にしながら、主に「読むこと」「書くこと」の力を育てることをねらいとして構成されている単元である。本単元は、数多くの苦難に出会いながら成魚となり、自分が生まれたもとの川へ産卵のために帰るさけの成長過程が児童に分かりやすいように書かれており、2年生の指導の重点である「順序に気をつけて読む」にふさわしい教材である。読み取りの手がかりとなる、時間的な順序や場所的な推移を表す言葉が、要所に書かれている。写真も効果的に活用しており、読み取りの助けにもなっている。また、この年代の児童は、生きものについて興味・関心をもち、絵や写真を見たり、飼育・観察を楽しんだりすることが多い。このような興味や関心を大切にしながら、「おもしろいな」という感動を「なぜだろう」「どうしてだろう」「不思議だ

な」などの疑問の方向に導いていくことが、説明文をより意欲的に読み取ろうという態度につながると考える。特に冒頭の問いかけ文、「どこで生まれ、どのようにして大きくなったのでしょうか」をうまく生かすことで、教材全体を最後まで興味を持続させながら読ませることができると考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、どの学習にも一生懸命取り組む児童が多いが、内容の理解度には差もある。発表に積極的な児童は多いが、友達の考えや発表をきちんと聞くことや聞いたことをもとに考えたり発表したりする力を育てたい。一方であまり積極的に発表しない児童の中にも、友達の発表をよく聞いて考えることができる児童がおり、どの児童も、シンキングツールやワークシートがあると自分の考えをもつことができたり、発表しやすかったりするようである。

国語に苦手意識を持っている児童に対しては、読解力をつけ、毎日の音読練習や漢字練習の繰り返しや読書の励行などにより、国語の基礎学力の定着を図っているところである。

生き物を扱った説明文には、興味・関心が高く、今回の学習の単元にも強い関心をもつと考えられる。さけの生態に興味をもたせながら、文章を順序よく読み取っていく力を育てていきたい。

(3) 指導について

本単元で取り上げている「さけ」は、児童にはなじみのある魚ではある。しかし、それは、食材として切り身になっている姿であり、生きている姿の想像や成長に関する知識は乏しいと考えられる。教材に出会うことで、さけの成長過程における苦労や成魚の回帰性など、不思議に対する驚きが生まれるであろう。「さけ」に対する驚きや不思議さといった興味や感動を維持しつつ、「時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むことができるようになる。」というねらいを達成するために、次のような工夫をしていきたい。

- ① 段落のつながりやまとまりを理解するために、順序や時間、場所を表す言葉に着目させ、読み取らせる。
- ② 次単元「順序よく組み立てて書く」活動で、本単元で学習した順序を表す言葉を活用させる。日常の中の説明に生かせるようにしていきたい。

4. 単元の評価基準

- ・さけの生態に興味をもちながら、順序に気をつけて、文章を正しく読もうとする。(関心・意欲・態度)
- ・言語には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(伝統的な言語文化と言葉の特質に関する事項)
- ・時間的な順序や場所、事柄の推移を考えながら、さけの成長を読むことができる。(読むこと)
- ・事柄の順序を考えながら語と語、文と文の続き方に注意して書くことができる。(書くこと)

5. 指導・評価計画案 (全7時間)

時	学習内容	評価基準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「さけ」について知っていることを発表する。 ・『さけが大きくなるまで』を読み、さけの成長の様子について学習することを学ぶ。 ・全文を通して、おもしろい・ふしぎだなどと思ったことを書き出し、発表する。 ・(1)段落を読み、時や場所、大きさを表す言葉に気をつけてさけについて読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さけについて、興味関心をもち、進んで読んでいる。 (観察・発表) ・「さけが大きくなるまで」の文章全体の構成を知ることができる。 ・『さけが大きくなるまで』に興味をもち、順序に気をつけて読み進め、学習の見通しをもとうとしている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・時や場所、様子を表す言葉に気をつけて、(2)段落「大人のさけがたまごを生むまでのようす」を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序や事柄の順序に気付きながら、「大人のさけがたまごを生むまでのようす」を読むことができる。 (発表)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・(3)段落の「冬の間たまごからかえり、やがて小魚になるさけのようす」を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序や事柄の順序に気づきながら、「冬の間たまごからかえり、やがて小魚になるさけのようす」を読むことができる。 (サイドライン・ノート)

4	・(4)(5)段落の「春になるころ、川を下るさけの子どもたちのようす」を読み取る。	・時間的な順序や事柄の順序に気づきながら、「春になるころ、川を下るさけの子どもたちのようす」を読むことができる。 (サイドライン・発表)
5	・(6)(7)段落の「広い海でくらすさけのようす」を読み取る。	・時間的な順序や事柄の順序に気づきながら、「広い海でくらすさけのようす」を読むことができる。 (サイドライン・発表)
6	・教科書の6枚の写真を使って、さけが大きくなる様子を説明しよう。	・時間的な順序や場所、事柄の推移を考えながら、さけの成長を説明することができる。 (発表)
7	・さけが出てくる他の本を読もう。	・さけの生態に興味をもち、さけについての他の本を探して読むことができる。 (関心・意欲・態度)

6. 本時の学習 (4/7)

(1) 本時の目標

海にむかって川を下るさけが大きくなる様子を、時や場所を表す言葉に気をつけて、読み取ることができる。

(2) 本時の展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◆評価 ☆支援
導入	1. 前時の学習を振り返る。 2.(4)(5)段落を音読する。	・「いつ、どこで生まれ、どのようにして大きくなったのでしょうか。」の問いかけ文を想起させる。 ・写真で、前時までの学習を振り返らせる。

	<p>3.学習のめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>海にむかって川を下るさけが大きくなるようすを読みとろう。</p> </div>	
<p>展開</p>	<p>4.(4)(5)段落を時や場所、大きさ、様子を表している言葉にサイドラインを引く。</p> <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時 <ul style="list-style-type: none"> 春になるころ いく日もいく日も ・場所 <ul style="list-style-type: none"> 海に向かって川を下る ・大きさやようす <ul style="list-style-type: none"> 五センチメートルぐらい <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時 <ul style="list-style-type: none"> 一か月ぐらいの間 ・場所 <ul style="list-style-type: none"> 川の水と海の水がまじった川口の近く ・大きさやようす <ul style="list-style-type: none"> 八センチメートルぐらい <p>5.見つけた言葉の意味やさけの成長の様子を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつ」「どこで」「どのように」と写真との関係を意識してみつけさせる。 ・傍線を引かせて、読み進める。 <ul style="list-style-type: none"> 時…赤 場所…青 大きさやようす…オレンジ <ul style="list-style-type: none"> ・年表などで四季がわかりやすいようにし、生活との結びつけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・春になるころ ・一か月ぐらいの間 ・様子を動作化やペープサートで確かめさせる。 ・さけの行動の様子を想像しやすくするために、実際の長さを示し、大きさを実感させる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・五センチメートル ・八センチメートル ・言葉の意味を絵と結び付けて確かめる。 ・海に向かって川を下る ・川口 <p>◆時間的な順序や事柄の順序に気付きながら読むことができる。 ☆見つけられない児童には、時間や場所、大きさなどの観点を確認させる。</p>
終末	<p>6.本時の学習で読み取ったさけへの驚きや感想をノートに記入し、発表する。</p> <p>7.次時への興味・関心を広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったこと、驚きや感想等をノートに記入させ発表させる。 ・次時の学習への興味・関心を広げられるように声かけをする。

(3) 板書計画

	<p>一か月ぐらいの間</p>	<p>いく日もいく日も</p>	<p>春になるころ</p>	<p>いつ</p>	<p>さけが大きくなるまで</p> <p>といかけ文</p> <p>いつ、どこで生まれ、どのようにしておおきくなつたのでしよう。</p> <p>海にむかって川を下るさけが大きくなるようすを読みとろう。</p>
	<p>川の水と海の水がまじった川口の近く</p>	<p>川を下る</p>	<p>海にむかって川を下る</p>	<p>どこで</p>	
	<p>八センチメートル</p>		<p>五センチメートル</p>	<p>大きさやようす</p>	